

編集 後記

3年ぶりの行動制限のないゴールデンウィークが終わりました。新型コロナウイルス感染症の新規感染者数増加は予断を許さない一方、社会全体として活動再開の兆しが少しずつ感じられるようになってきました。

さて、第69巻6号では、原著論文5編、資料1編が掲載されています。Iwasakiらは、都道府県保健師における市町村保健師の人材育成に関する支援の実態について、質的記述的に示しました。日本の現状を明らかにするとともに、人材育成支援を効率的に進めるための提案がなされています。中川らは、女性就労者の労働要因、社会経済的要因と受診抑制について、社会調査データを用いて検討をおこなっています。研究結果より、個人のライフステージや家族関係とともに、労働環境や環境を考慮した健康支援の重要性が示されています。

原著論文のうち3編は高齢者を対象とした報告です。木村らは、都心部において増加する高齢者の孤立死に焦点をあて、その背景にある課題を検討しました。都心部高齢者の孤立死において、突然死疾患の死因に加えて、配偶者の死別や離別、未婚の影響が示唆される結果となりました。新鞍らは、地方都市在住高齢者の社会活動不参加に着目して、不参加に関連する要因を探索的に分析しました。社会活動を仕事や町内会活動、趣味の会等に分けて検討をおこない、活動の種類によって不参加の関連要因が異なることを明らかにしています。稲垣らは、地域在住高齢者を対象に、自記式質問票による包括的な健康評価と3年後の要介護・認知症状態の関連について検討しました。その結果、当該項目はとりわけ認知症状態への移行予測に有用であったことを報告しています。

さらに、近畿圏の保健所における新型コロナウイルス感染症第1波、第2波への対応について、富岡らの報告が掲載されています。当時の状況を示す貴重な資料となっており、今後のパンデミック発生時での利活用が期待されます。

コロナ禍において、公衆衛生学の重要性が、一般社会により広く周知、認識されるようになってきたことを感じます。日本公衆衛生学会の機関誌である本誌は、学術的な情報発信の場として大きな役割を担っています。会員の皆様の積極的な投稿をお待ちしております。

(内藤真理子)

次号予告 (第69巻・第7号)

論 壇

介護予防に資する「通いの場」の概念・類型および類型の活用方法の提案……………植田拓也, 他

原 著

外出頻度を尋ねる際の外出の定義の有無により生じる「閉じこもり」群の要介護リスクの違い……………平井 寛, 他
愛媛県A保健所管内に多発する日本紅斑熱と重症熱性血小板減少症候群の感染原因とその対策の研究……………富田直明

公衆衛生活動報告

がん対策推進基本計画に基づいたがん化学療法チーム研修の役割……………齋藤義正, 他

資 料

行政保健師による精神障害者の就労継続支援の内容……………西谷梨花, 他
「通いの場」の類型別にみた参加者の多様性と住民の主体性：高齢者が参加する都市部の自主グループ調査から……………小林江里香, 他
地方自治体における COVID-19感染者に関する情報公表の実態：2020年1月～8月の公表内容の分析……………永井亜貴子, 他